

自己紹介

■名前

稲葉 友輔

■年齢

33歳(来週34歳)

■学習歴

2010年／LEC(ストレート合格目標)

2011年／TAC(二次本科)

2012年／**弱小勉強会**・TAC(二次本科)



年度	一次試験	二次試験
2010	科目合格(企経、法務、中小)	資格なし
2011	合格	A・C・A・B:総合B 不合格
2012	受験せず	なんとか合格

合格理由(と思われること)

■勉強会を軸にPDSサイクルが確立できたこと。

土	日	月	火	水	木	金
弱小	TAC	復習	復習	過去問	過去問	TAC復習
See	Plan Do See	Plan See	Plan See	Do	Do	See

■徹底的に過去問に取り組んだことで、精神的な余裕を得たこと。

H19年～H23年／2回転(問題によっては3回転)

H13年～H18年／1回転(問題によっては2回転)

■周囲の協力体制(家族、友達、同僚etc)

■勉強会における温かみのある人間関係

PLAN(継続的にプロセスを改善する)

■勉強会を通して解法プロセスの精度が向上した。

- ・多くの問題を解き、フィードバックをもらうことで、自身に適した、無駄の少ない解法プロセス(※)を構築できた。

※フロー、タイムマネジメント、事例別の対応策など

- ・オリジナルテキストを作成し、勉強会で得た知識を書き足していき、1ヶ月半に一度のペースでオリジナルテキストを更新した。

■プロセス向上のきっかけとなった言葉

- ・本番でのやり方を考える前に、なぜ落ちたかを分析したほうが良い。

→2011年末の、この説明会にて

- ・事例企業の課題と、進むべき方向性を意識すれば、解答の一貫性はとれる。

→2012年春:勉強会でのOBのコメント

DO(過去問を解く)

毎週最低1事例、過去問を解く環境

■ 初期：毎週1事例の過去問

- ・80分で手書きで書いて、タイムマネジメントの感覚をつかむ。
- ・自分の解答をベースに、時間制限をかけずに、再度答案を作成する。

■ 中期：毎週2事例の過去問

- ・80分で手書きで書いて、タイムマネジメントの感覚をつかむ。
- ・納得いかない解答も今の実力と割り切って提出。

■ 直前期：毎週2事例の過去問(しかも「その場解き」)

- ・その場解きを行うことで、本番に近いプレッシャーを味わうことができた。
- ・「できない問題はみんなできない」という法則？を実感できた。

SEE(多様な観点からのフィードバック)

■その場で生のフィードバックが得られる。

- ・一文が長いので、読みづらい。

→2012年8月:勉強会でもらったコメント

- ・解答に無駄な記述が多い。

→2012年9月:勉強会でもらったコメント

■議論によって、足りない知識を効率的に吸収できる。

- ・一次系の知識
- ・事例別の特徴
- ・言葉の定義(範囲)
- ・解法プロセス
- ・ツールの工夫 etc

信頼できる仲間、OBからのフィードバックは最大の財産

合格に必要な要素とは??

- 設問要求を外さないこと。
- 与件文の重要な記述を見逃さないこと。
- 事例企業の方向性と課題を意識すること。
- 採点者に理解される回答を、80分の時間内で1つでも多く作ること。
- 想定外の問題が出ても、平常心を保つこと。



自主性を重んじる雰囲気とお互いを尊重する文化が、毎週土曜日、神田に通えた原因です。